

ニ棲者ハ褐色ナル者アリ、白色ナル者ハ稀ナリ、尿ヲ天鼠尿トス、即薬用ノ夜明沙ナリ、形鼠尿ノ如クニシテ小ク、兩頭尖リ色黒シ

増集解時珍ノ説ニ、夏出冬蟄ト云ハ誤ナリ、冬ト云ヘドモ蟄スルモノニ非ズ、伏翼ノ性、山椒及ビ

酒ヲ好ム、小兒紙ニ酒ヲ浸シ、或ハ紙ニ山椒ヲ包テ、黄昏ノ間飛行スルヲ伺テ、ソノ中ヘ投ズレバ、

即墜リテ落ツ、又人ノ手足等ヲ咬テ離シ難キ時、山椒ヲ側ニ置ケバ即チハナスモノナリ、

〔百品考〕下太蝙蝠。和名リウキウカハホリ略○中

琉球ニ産ス、故ニリウキウカハホリト云稀ニ鳥店ニ畜ヘリ、形常品ニ似テ大ナリ、毛皮淡紫色、肉

翅常ノ蝙蝠ニ同ジ、淡紫ニシテ毛カシ、日ニ映ズレバ紅紫ニシテ透徹スルガ如シ、前足ハ一ツノ

鉤ナリ、翅ノ肩ニアリ、後足ハ鼠ノ足ノ如ク毛アリ、五指アリ、翅ヲ斂ムレバ、常鼠ノ大ナリ、好テ樹

枝ニ倒懸ス、翅ヲ張レバ尺ニ過グルモノナリ、

〔南島志下物産〕蝙蝠産于八重山者、其形極大俗名八重山蝙蝠

〔提醒紀談五〕蝙蝠

江戸淺草阿部川町なる一商家の土藏の雨よけ、俗にまたまといふもの破損せしかば、修復を加へんとて、その費を計るに、費はさのみ多からねども、折節儲の乏しかりければ、大工と相談するに、大工の云、増釘をうち、少々手を入れおかば、まづ此節は雨を防ぐに足りぬべし、さして改め造らざるも可らんとはいへるに任せて、遂に釘を加へうも、こゝかしこ補て事濟ぬ、其後三年を経て再び大に破壊したれば、こたびはいまゝ改めつくらんとて、大工をしてまたまの板をはなし見るに、その板と壁との間に、一疋の蝙蝠の棲るが、飛去りも得ずして居たり、これをよく見ると、その翼の釘にうち貫れて、たゞぐるりと釘のまはりを通るばかりなれば、これが爲に庫の壁も輪の如く窪みたり、さでうち貫れたる釘のめぐりは、翼に環の如く肉を生じたり、彼